

【近畿ESDコンソーシアム・学生によるESD活動支援】 大学生とワークショップ！子どもSDGs 活動報告書

国語教育専修 2回生 田中 愛花

1. 日 時 2023年8月6日（日）10時30分～12時00分

2. 場 所 奈良市立富雄公民館 2階 集会室

3. 参加者 英語教育専修 3回生 苗代 昇妥 国語教育専修 2回生 田中 愛花
美術教育専修 2回生 東 瑞 書道教育専修 1回生 間宮 千尋
数学教育専修 1回生 筒井 茉啓

4. 活動の概要

2023年8月6日に、奈良市立富雄公民館にて、大学生とワークショップ！子どもSDGsが行われ、本学ユネスコクラブの学生が参加した。

目標は、以下の三つである。一つ目は、年齢の異なる参加者達や大学生と交流し、各々の考え方や価値観を理解できる。二つ目は、保険や水・衛生、インフラに関する問題を捉え、自分ができる解決方法について主体的に考え、行動できるようになる。三つ目は、SDGsに関心を持ち、継続して取り組もうと考えることができる。これらの目標をもとに、活動を進めた。

5. 参加学生の学び・感想

今回の活動で学んだことは、伝えたい内容を分かりやすく説明する難しさである。小学生を対象に実施したため、伝わりやすい言葉に置き換えたり参加者が体を使って学ぶことができるように内容を工夫したりすることを心掛けた。また、活動の90分間、集中力を持続させるには、話を聞いてもらう場面と、楽しく体を動かす場面など全体の構成にも工夫が必要であることがわかった。今後も、活動を学びある良いものにするために、全体の構成と各場面での工夫との両面から授業づくりを考えるようにしたい。

（英語教育専修 3回生 苗代 昇妥）

今回の活動で学んだことの一つ目は、児童に意欲的に授業を取り組んでもらうための方法である。クイズや寸劇、体験的な活動を駆使することで飽きさせることなく、子どもたちのやる気を引き出せるとわかった。二つ目は、準備の大切さである。今回の活動では、ろ過装置を製作するワークショップを行ったため準備物が非常に多かった。前日まで準備物の用意をしていたので、リハーサルの時間が減ってしまったように思う。今後は、もう少し見通しを持って授業づくりに励んでいきたいと思う。全体を通して、児童の意見を取り入れながら活動を進めることができたので、これからも積極的にESD実践の活動に参加していきたいと思う。

（国語教育専修 2回生 田中 愛花）

今回の活動を通して、児童の積極的な参加を促す活動は、子供のやる気を引き出し、主体的な学び

へ導くことに気づいた。企画の劇やクイズ、そしてろ過装置の工作活動で、児童の好奇心を引き出すとともに、児童の積極的に学びをつかみ取ろうとする姿勢を促した。やはり、好きこそものの上手なれで、「楽しい、もっと知りたい」と思わせる動機づけがカギとなると感じた。これからも、効果的な動機づけを駆使し、児童の主体性を育めるような工夫を心掛けていきたい。

(美術教育専修 2回生 東 瑞)

今回の子供SDGsが初挑戦の企画であったが、児童が体験しながら学びのある講義にするにはどうすれば良いか考えながら計画を立てることが一番難しかったと感じる。講義中では児童の反応を見ながら話を進めることが難しく、リハーサルと違う箇所も多くあったので臨機応変に動く力をより身につけていかななくてはならないと感じた。また、児童の反応を見て動くということは、反応してくれる児童には動きやすいが、反応が薄い児童には動きづらいのだということを感じ、児童が積極的に反応できるような雰囲気づくりも同時に大事なことであったと学んだ。

(書道教育専修 1回生 間宮 千尋)

私は本企画で、児童がより企画内容を理解できるようにするための術を見つけることができた。言葉だけでなく、実際に絵を見せたり具体例を出したり様々な方法があるのだと知った。また、パワーポイントの分かりやすい見せ方や、低学年の児童に対する言葉遣いなども学ぶことができた。今回の学びを活かして、これからも企画の発案や、児童への声かけができるようにしていきたい。

(数学教育専修 1回生 筒井 茉啓)